

第15回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2006年 5月 21日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

時々ある、分析上のうっかりミス

まとめて表現してはダメ！

「なぜなぜ分析」で、時々ある間違いのひとつに、まとめて表現してしまうといったことがあります。

例えば、あるグループで「自動車が蛇行する」の次の「なぜ」を考えていたとします。

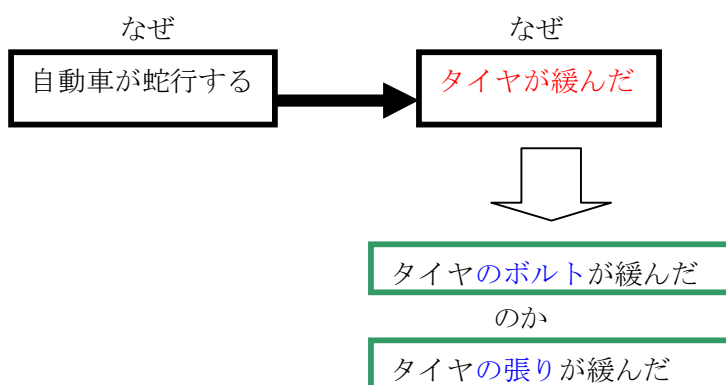
そのときに、以下に示すように「タイヤが緩んだ」という「なぜ」を出てきたとします。

この「タイヤが緩んだ」という表現は正しいでしょうか。

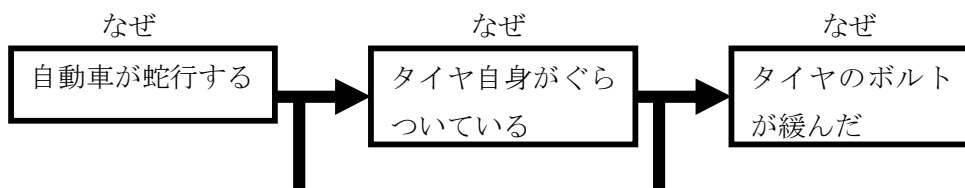
よくよく考えてみると、「タイヤが緩んだ」という表現では、「タイヤのボルトが緩んだ」のか、「タイヤの張りが緩んだ」のかどちらかわかりません。

私たちは時々、このように色々な要素を含むものを、ひとつにまとめて表現してしまうことが少なくありません。

やさしい事柄の場合は、それでもよいかもしれませんが、複雑な事象を捉えて分析する場合は、このようなちよつとしたことによって、正確な原因を導き出すことができなくなります。



この場合は、以下のようになります。



以上